

## 【特支参考 1】特別支援学校教諭免許状（一・二種）の取得について （免許法別表第 7 及び免許法施行規則第 18 条による）

※他県へ申請をする場合は、必ずその県の教育委員会から単位等の指導を受けること。

### ○概要

特別支援学校教諭免許状は、視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者又は病弱者に関する教育の領域（以下これらをまとめて**5 領域**という）の内、いずれか 1～5 つの領域を定める免許状である。また、免許状を授与されたのち、別途単位を修得することにより、所有免許状に**新教育領域の追加**を行うことができる（4、5 ページ【特支参考 2】参照）。

### ○基礎となる免許状（単位修得のために有している必要がある免許状）

- ①二種免許状取得⇒幼稚園、小学校、中学校または高等学校教諭の普通免許状
- ②一種免許状取得⇒特別支援学校教諭二種免許状

### ○必要となる在職年数：3 年以上（上記免許状を有した後の勤務年数）

種別により、含めることのできる勤務学校種年数が異なる。

- ①二種免許状⇒幼稚園、小学校、中学校、高等学校又は特別支援学校の教員としての（良好な成績での）勤務年数を計上する。また、上記いずれかの普通免許状を有した後の、助教諭免許状による勤務年数も計上可能。ただし常勤勤務に限る。  
（例：中学校教諭普通免許状を有し、小学校助教諭免許状にて小学校で臨時講師として勤務した年数も計上できる。）
- ②一種免許状⇒二種免許状を有した後の、特別支援学校の教員としての（良好な成績での）勤務年数を計上。

※免許状申請時に「実務に関する証明書（第 6 号様式）」により勤務年数（及び成績の）証明を受ける。履修及び単位修得時においては、必要となる在職年数に達していなくてもよい。

## ○必要単位

<b>最低必要単位数</b> (下記それぞれの科目欄について、右列の単位数以上 となるように単位を修得しなければならない。)	<b>計 6 単位</b>
<b>(第 1 欄) 特別支援教育の基礎理論に関する科目</b>	1 単位
<b>(第 2 欄) 特別支援教育領域に関する科目</b> 免許状に定める特別支援教育領域について、それぞれ次の①又は②に定める 最低修得単位数を含んで修得する必要がある。  <u>①視覚障害者又は聴覚障害者領域の場合 (※注 1)</u> ・「心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する 科目 (以下、 <b>心理等</b> という)」を 1 単位 ・「心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する 科目 (以下、 <b>教育課程等</b> という)」を 1 単位  <u>②知的障害者、肢体不自由者又は病弱者領域の場合 (※注 2)</u> <b>「心理等」</b> 及び <b>「教育課程等」</b> の内容を含む科目を 1 単位	3 単位
<b>(第 3 欄) 免許状に定められることとなる特別支援教育領域            以外の領域に関する科目 (※注 2)</b>  <b>「心理等」</b> 及び <b>「教育課程等」</b> の内容を含む科目で、 <u><b>5 領域</b>並びに<u>その他障害</u></u> <u>により教育上特別の支援を必要とする者に対する教育に関する事項 (※注 3)</u> の 内、授与を受けようとする教育領域に関する事項以外のすべての事項を含めた 単位を 1 単位以上修得する必要がある。  また、前述単位を修得の上、第 2 欄用で、授与を受けようとする免許状の教育 領域以外の単位を、この欄に充てることができる。 <u>(参考：3 ページ 例 1・2)。</u>	2 単位

※注 1 視覚及び聴覚障害者領域の科目について、本県では隔年で「**心理等**」と「**教育課程等**」を開講中である (今後もそのような形で開講予定)。

※注 2 当該領域について、本県認定講習で開設しているものは、1 単位で「心理等」及び「教育課程等」の内容を含んでいるが、他の教育機関ではいずれか一方の内容しか含んでいない場合がある。その場合は「**心理等**」と「**教育課程等**」の両方が満たされるようにそれぞれ単位を修得しなければならない。

※注 3 その他障害により教育上特別の支援を必要とする者に対する教育に関する事項とは、重複障害、言語障害、情緒障害 (自閉症を含む。)、学習障害 (LD)、注意欠陥多動性障害 (ADHD) を指す。これらを「**重複・LD等**」という。

## ○免許状取得のための単位修得例

本県認定講習開設科目の単位により、二種免許状を取得する場合を想定している。

### ●例1 知・肢・病の3領域の免許状の場合

科目欄	科目	修得 単位数
第1欄	(基礎理論に関する科目) 1単位	1
第2欄	(領域に関する科目) 知的障害者 1単位 肢体不自由者 1単位 病弱者 1単位	3
第3欄	(領域以外に関する科目) 重複・LD等 1単位 + (領域に関する科目) 視覚障害者 <u>1単位</u> ※第2欄用の単位を充当	$1 + \underline{1}$ = 2
	合計	6

### ●例2 視・知の2領域の免許状の場合

※本県認定講習において、視覚及び聴覚障害領域は、単年で単位を完備できないため、複数年の履修が必要。

科目欄	科目	修得 単位数
第1欄	(基礎理論に関する科目) 1単位	1
第2欄	(領域に関する科目) 視覚障害者 ・心理等 1単位 ・教育課程等 1単位 知的障害者 1単位	3
第3欄	(領域以外に関する科目) 重複・LD等 1単位 + (領域に関する科目) 聴覚障害者 <u>1単位</u> ※第2欄用の単位を充当	$1 + \underline{1}$ = 2
	合計	6

### ●例3 全5領域の免許状の場合

※本県認定講習では単年で下記全ての単位を完備できないため、複数年の履修が必要。

※本県開設の第3欄用単位(重複・LD等)について、開設年度が異なれば、同一講義名であってもそれぞれ個別独立した単位とみなしている。

科目欄	科目	修得 単位数
第1欄	(基礎理論に関する科目) 1単位	1
第2欄	(領域に関する科目) 視覚障害者 ・心理等 1単位 ・教育課程等 1単位 聴覚障害者 ・心理等 1単位 ・教育課程等 1単位 知的障害者 1単位 肢体不自由者 1単位 病弱者 1単位	7
第3欄	(領域以外に関する科目) 重複・LD等 2単位	2
	合計	10

## 【特支参考 2】新教育領域の追加について

### ○概要

特別支援学校教諭免許状は、別途単位を修得することにより、所有免許状に新教育領域の追加を行うことができる。

### ○基礎となる免許状（単位修得のために有している必要がある免許状）

特別支援学校教諭普通免許状

### ○必要となる在職年数：1年以上

種別による、含めることのできる勤務学校種年数は【特支参考 1】に同じ。

※免許状申請時に「実務に関する証明書（第 6 号様式）」により勤務年数（及び成績の）証明を受ける。履修及び単位修得時においては、必要となる在職年数に達していなくてもよい。

ただし、基礎となる免許状を別表第 7 により取得している場合は、在職年数は不問となる。  
(免許状授与の際、在職年数が 3 年以上であることが既に証明されているため。)

### ○必要単位

追加しようとする教育領域	含む必要のある単位数 (別表第 7 による単位)	最低必要単位数（種別）	
		二種	一種（※注 4）
視覚障害者 又は聴覚障害者	((該当する) 領域に関する科目) ・ <b>心理等</b> 1 単位以上 ・ <b>教育課程等</b> 1 単位以上	2 単位	4 単位
知的障害者、 肢体不自由者 又は病弱者	((該当する) 領域に関する科目) 「 <b>心理等</b> 」及び「 <b>教育課程等</b> 」 1 単位以上 (※注 2)	1 単位	2 単位

盲、聾及び養護学校教諭免許状を有する者は、平成 19 年 4 月 1 日より特別支援学校教諭免許状を有しているもの（盲⇒視覚、聾⇒聴覚、養学⇒知的・肢体・病弱領域 の特支免許）とされているため、これらの免許状に対しても新教育領域の追加を行うことができる。（当該領域の特別支援学校教諭免許状を新規に取得するわけではない。）

※注 2 2 ページの注釈を参照。

※注 4 一種免許状に新教育領域の追加を行う際、追加しようとする領域の二種免許状を既に有している場合は、二種免許状に領域追加するための単位数分、必要単位数を逡減できる。  
(例：一種に視覚追加したい⇒二種の視覚所有⇒4 - 2 = 計 2 単位修得でよい)

## ○新教育領域の追加のための単位修得例

※「目指す免許状（領域種）取得のために必要な単位」と「現所有免許状取得のために修得した単位」の差分の単位を修得していくことになる。（以下、3 ページ●例 1 の免許状に領域追加する場合を例示する。）

### ●例 1 -A 聴覚障害者領域を追加する場合（知・肢・病の3領域 → 聴・知・肢・病の4領域）

科目欄	免許状取得時単位	領域追加のため必要な単位	《参考》通算修得単位
第 1 欄	(基礎理論に関する科目) 1 単位		(基礎理論に関する科目) 1 単位
第 2 欄	(領域に関する科目) 知的障害者 1 単位 肢体不自由者 1 単位 病弱者 1 単位	(領域に関する科目) <b>聴覚障害者</b> ・心理等 1 単位 ・教育課程等 1 単位	(領域に関する科目) <b>聴覚障害者</b> ・心理等 1 単位 ・教育課程等 1 単位 知的障害者 1 単位 肢体不自由者 1 単位 病弱者 1 単位
第 3 欄	(領域以外に関する科目) 重複・LD 等 1 単位 (領域に関する科目) 視覚障害者 <u>1 単位</u>		(領域以外に関する科目) 重複・LD 等 1 単位 (領域に関する科目) 視覚障害者 <u>1 単位</u>

### ●例 1 -B 視覚及び聴覚障害者領域を追加する場合（知・肢・病の3領域→視・聴・知・肢・病の5領域）

※既修得の視覚障害教育領域の単位は「**教育課程等**」であったとする。

科目欄	免許状取得時単位	領域追加のため必要な単位	《参考》通算修得単位
第 1 欄	(基礎理論に関する科目) 1 単位		(基礎理論に関する科目) 1 単位
第 2 欄	(領域に関する科目) 知的障害者 1 単位 肢体不自由者 1 単位 病弱者 1 単位	(領域に関する科目) <b>視覚障害者</b> ・心理等 1 単位  <b>聴覚障害者</b> ・心理等 1 単位 ・教育課程等 1 単位	(領域に関する科目) <b>視覚障害者</b> ・心理等 1 単位 ・教育課程等 <u>1 単位</u> <b>聴覚障害者</b> ・心理等 1 単位 ・教育課程等 1 単位 知的障害者 1 単位 肢体不自由者 1 単位 病弱者 1 単位
第 3 欄	(領域以外に関する科目) 重複・LD 等 1 単位 (領域に関する科目) 視覚障害者 ・ <u>教育課程等 1 単位</u>	(領域以外に関する科目) <b>重複・LD 等 1 単位</b>	(領域以外に関する科目) <b>重複・LD 等 1 単位</b> <b>+ 1 単位</b> <b>= 2 単位</b>

※新教育領域の追加の際には、免許状取得時に第 3 欄に充てた第 2 欄用単位を、第 2 欄に充て直すことが出来る。例 1 -B では視覚の「教育課程等 1 単位」を第 2 欄に充て直している。これにより第 3 欄の単位数が必要分から 1 つ不足してしまうので、第 3 欄用単位を改めて 1 単位追加で修得する必要がある。